

超高層大気イメージングシステムと誘導磁力計ネットワークによる電磁気圏の観測とデータ公開

Ground network observations and database of the Optical Mesosphere Thermosphere Imagers and induction magnetometers

塩川 和夫 [1]; 大塚 雄一 [1]; 小川 忠彦 [1]

Kazuo Shiokawa[1]; Yuichi Otsuka[1]; Tadahiko Ogawa[1]

[1] 名大 STE 研

[1] STELAB, Nagoya Univ.

名古屋大学太陽地球環境研究所では、超高層大気イメージングシステム (OMTIs) と誘導磁力計を用いた超高層大気・電磁気圏の地上ネットワーク観測を行っている。OMTIs は、高感度全天イメージャー 9 台、ファブリ・ペロー干渉計 (2 波長) 1 台、掃天フォトメータ 3 台、OH/O₂ 回転温度計測用分光器 4 台で形成され、主に 557.7nm、OH バンド、630.0nm の 3 つの波長の大気光 (高度 96km、87km、250km にそれぞれ対応) を用いて、大気光の輝度分布、風速、温度を観測する。これらの機器は北海道陸別町、滋賀県信楽町、鹿児島県佐多岬、沖縄県与那国島、オーストラリアのダーウィン、インドネシア、カナダ 2 点 (極冠域とサブオーロラ帯)、ロシア極東域にそれぞれ設置されている。また、平成 20 年度には、新たに 4 台のファブリ・ペロー干渉計を開発し、EISCAT トロムソサイト、インドネシア、タイ、オーストラリアに順次設置して、自動観測を開始する予定である。また、誘導磁力計は、カナダ (サブオーロラ帯)、ロシア極東域、北海道母子里、鹿児島県佐多岬にそれぞれ設置され、64Hz サンプリングの自動観測を行っている。これらの機器のデータはすべてホームページで quick-look plot が公開されている。ホームページのアドレスは、<http://stdb2.stelab.nagoya-u.ac.jp/omti/> 及び <http://stdb2.stelab.nagoya-u.ac.jp/magne/> である。